

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 2階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、レクリエーションに力を入れております。毎月必ず行われているレクリエーション(お食事会、季節を感じて頂ける四季折々のレクリエーション)の他に外部の方の協力により、音楽療法等。また、それとは別に週に6回のペースで、全入居者様を対象にリハビリテーションを交えたレクリエーション(口腔内体操、健康体操、近隣公園での運動)などを実施しております。残存機能の保持・向上を全館挙げての目標として掲げ、日々業務にあたっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市中心部の交通量の多い国道に面した場所にある3ユニットのグループホームである。建物は5階建てで、1階は母体の医院の他にレクリエーションができる大きな部屋があり、2～4階がグループホームとなっている。また、介護付き有料老人ホームも併設されている。周辺には商店や専門学校、オフィスビルなどがあり利便性に優れている。そのため、専門学校生による音楽療法の訪問を受けたり、隣接するコンビニエンスストアの訪問販売があるなど地域との交流が活発である。1階のレクリエーション室を活用して、毎日午後に、リハビリや遊び、茶話会など様々なメニューで活動しており、利用者のアクティビティの向上につながっている。利用者と職員、利用者同士の会話も多く、家族的な雰囲気となっている。ケアマネジメントの面では、利用者ごとの個々の基本情報シート、身体、日常生活状況シートを整備し、情報の蓄積、共有がなされている。介護計画更新時のモニタリング表、課題分析シートなども整っている。医療面については、母体医院による往診体制が整い、看護師や管理栄養士の目も行き届き、利用者や家族の安心につながっている。外出支援の面では、公園への散歩や個別の買い物同行、花見や野球観戦、レストランでの外食など個々の利用者に合った支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族になろう」を理念に管理者と職員は、その理念を共有し地域の中で自立とゆとり、受け入れの実施をしている。	理念の中心に「家族になろう」という文言を据え、サブ項目の中の文言にも地域との関わりの意味を込めている。理念を各ユニットに掲示し、代表者や管理者が折に触れて職員に説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣公園でのレクリエーション時、住民との交流がある。また運営推進会議でも御家族様、包括センターの方へ活動内容を報告しています。	公園に散歩をした際に地域の方と会話している。事業所のハロウィンパーティーに近くの児童施設の子供たちを招いている。また、2ヵ月に1回、専門学校生による音楽療法の訪問を受けている。隣接するコンビニエンスストアの訪問販売もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学等は常に受け付けており事業所より説明して頂ける。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、包括センターの方との質疑応答の機会を設け、向上と実践につながる様努めている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、地域包括支援センター職員、町内会役員、2～3名の家族の参加を得て、各種委員会報告の他、行事や防災、外部評価などをテーマに意見交換している。議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を積極的に取り、今後について話し合いを行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を得ている。介護保険制度などで疑問があれば市に直接出向いて相談している。管理者は市や区の管理者会議に参加し、行政担当者とも情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを目標に掲げ定期的に委員会を開き職員に周知している。	身体拘束に関わる禁止の対象となる具体的行為を記したマニュアルを用意し定期的に勉強会を行っているが、禁止の対象となる具体的行為の全職員の理解はまだ十分といえない。ユニットの出入り口は施錠しているが、利用者の外出希望を察知した場合は同行するようにしている。	定期的な勉強会の中で、身体拘束の禁止の対象となる具体的行為について職員の理解が深まるよう、取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等で多くこの事に触れ「自覚のない虐待」についても検討する場を設けている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用し関係者と連携を取り支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明し不明な点や質問等にも真摯に対応し疑問や不安を取り除ける様対応させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を発信しやすい関係、環境作りに努めている。運営推進会議、面会時等に意見・要望を聞いている。相談窓口等の告知も行っている。	運営推進会議の他、家族の来訪時や電話にて意見を聞いている。意見は「面会時及び電話等の報告」の用紙に記載し共有している。また、毎月「ソレイユ通信」を作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見や提案を聞く。直接現場にて現状把握し働きやすい環境作りに努めている。	毎日の申し送りでの情報共有に力を入れている。月1回の連絡会議や月に数回あるフロア会議でも職員が活発に意見交換している。職員は、業務改善や感染症対策など各種の委員会に属したり、レクリエーション等の係を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	都度、職場環境について意見を聞きやりがいを持って職務に当たれる様、条件等の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を設けている。また社内研修会でも技術指導を行い、介護力の底上げに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業施設と交流を図り、積極的に良い部分を取り入れ、介護の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ケアマネ、医療機関より情報収集し、ご本人にお会いし直接お話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ直接ご家族とお会いし見学も兼ねて来訪して頂くか、こちらから訪ねお話を出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を精査し、支援に関する助言や情報提供を行っている。必要に応じ、他機関の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	勤務フロアを固定し馴みの関係を築ける環境にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議等に積極的に参加して頂き様々な場面を共有できる様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の来訪を積極的に促している。また生活歴やこれまでの話を思い出して頂ける様、積極的に関わっている。	全体の半分ほどの利用者に知人や友人が来訪している。知人に電話を掛けたり手紙を送る際は職員が手伝っている。家族と一緒に美容室や教会、外食などに出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や趣味を考慮し、レクの提案、環境整備に努めている。また、入居者様が生き生きと会話を楽しんで頂ける様、橋渡し出来る様努めている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移住や医療機関へ移られても知人としての来訪や面会、またご家族への連絡にて様子を伺い、継続的な関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、その方の思いや希望を理解しケアプランの作成に努めている。また意志疎通が困難な場合はご家族から情報収集し反映させている。	言葉で思いや意向を表出できる方がほとんどで、難しい方の場合も表情や反応で把握している。個々の「基本情報」「身体、日常生活状況」のシートを整備し、情報を蓄積、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族からご本人の生活歴に関する情報をお聞きし、基本情報に記入しているが日々の関わりの中からも情報を得られる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の生活リズムやADLの状態の把握、わずかな変化も見逃さず、記録に残しスタッフ間の情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、担当スタッフが中心となりご本人、ご家族の意向をお聞きしドクター、クリニックに助言を頂きプランに反映している。	介護計画を3ヵ月毎に見直し作成している。モニタリング表を参考にサービス担当者会議で課題分析を行い、次の計画を作成している。ケース記録と申し送りノートに介護目標に関する利用者の様子や変化を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過記録を作成し日常生活の様子を記録し全職員が把握出来る様に努めている。ご家族も回覧出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個人の状況に応じて介護・福祉・医療における社会資源を活用しご家族の理解と協力を得て柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの導入を行い、行事やレク等で来園して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関やかかりつけ医の選択に関してはご本人やご家族の希望に沿って行っている。	利用者全員が母体病院による往診を受けている。他科目を受診する場合は原則家族対応だが、家族が難しい場合や緊急時は事業所で同行している。受診内容は、看護師がカルテを作成すると共に、申し送りノートに指示内容を記載している。	

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員と同じ勤務を行い、情報の収集や共有に努め、介護と医療の橋渡しの役割も担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院における利用者の負担を十分理解し、ご家族、医師、ソーシャルワーカー、他の機関と連携して早期退院の実現に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を打ち出し、ご本人やご家族に理解と協力を得られる様に努めている。また個々の状況やその時々々の意向等に配慮出来る体制を整えている。	利用者が重度化した場合や終末期については事業所での看取りではなく、医療設備の整った医療機関に移ることを基本に利用者や家族に説明し、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し迅速に対応出来る様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルに従い避難誘導などの訓練を行っている。訓練時にはご家族や地域住民の方々に参加頂き、現状の把握と改善の為に協力を得ている。また近隣施設の協力を得て避難場所を確保している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、消防や地域関係者の参加も得ている。地震等、火災以外の対応についてもマニュアルを整備し、話し合いを行っている。職員は救急救命訓練を定期的に受講し、災害時に必要な備蓄品も準備している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の尊厳を最大限尊重した言葉かけや日常生活の支援を行っている。	接遇マナー研修を実施し、不適切な対応があれば申し送りで注意を促している。利用者は「さん」づけで呼びかけ、個人記録類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の希望等を傾聴しそれらが伝え易いなじみの関係の構築、日々の状態観察に努めている。意思疎通が困難な方は、ご家族の意向を把握し自己決定に準ずる対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格や周辺症状などを踏まえ業務の内容や時間配分については見直しや改善の為に検討を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場面に応じた身だしなみの配慮。また訪問理容を行っているが希望によっては理髪店、美容院への外出も支援している。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から片付けまでの工程において個々の残存機能に応じて一緒に調理に参加出来る様に検討している。	献立は、旬の食材を活かして管理栄養士が作成している。戸外でジギスカンをしたり、和菓子レクや洋菓子での茶話会なども行っている。利用者は、盛り付けや食器洗いなどを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属の管理栄養士と連携し、食事形態や栄養バランス、個人の嗜好や疾病等に配慮している。また食事、水分の摂取量は毎食、記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。必要に応じて、食間の義歯保管も行っている。協力して頂いている訪問歯科とも連携し指導・助言を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを把握し不快さを軽減出来る様、失禁や不潔行為防止に努めている。	排泄記録表に全員の排泄を記録して、個々に応じて声かけやトイレ誘導を行っている。身体状況などに配慮しながら、可能な限り昼夜共にトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	専属の管理栄養士と連携し、排便を促す食材や飲料等を提供出来る様にしている。便秘や排便困難な方へは主治医と連携して個別に対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めて促し入浴して頂いている。入浴拒否が強い方・褥瘡予防の利用者さんをうまく入浴に誘導するようにしている。	毎日午前から午後まで入浴が可能で、本人の体調や気分に合わせて週2回以上の入浴を支援している。入浴が楽しめるように入浴剤を使用したり、アロマエッセンスを使った手浴なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に十分な睡眠状態が摂れるように日中は出来るだけ活動への参加を促しているが、その日や個々の状態によっては参加せずに休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋を管理しており、分包時や配薬時には声出して確認している。また薬局による薬の配達時には職員が薬剤師から直接説明を聞いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までに培ってきた事等を尊重し、個々に洗濯物たたみや手芸、園芸、居室の清掃等を行って頂いている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や希望に応じた外出を企画し実施している。個別の外出に関してもケアプランに挙げたり、その日の体調等により散歩での気分転換を行っている。	近隣の公園に散歩に出かけたり、春には北海道神宮で花見を楽しんでいる。希望に応じて野球観戦やコンビニエンスストア、コーヒーチェーン店などにも出かけている。100円ショップへの買い物レクや和食レストランでの外食なども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の所持に関しては、ご本人、ご家族の希望にて対応している。使用に関しては、職員の同行にて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人と電話が出来る様、支援している。手紙や用件の代筆、代弁も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはくつろげる様に、ソファを設置、また季節毎に入居者様と作成した作品を飾り、カーテン等には温もりのある暖色系を用い居心地の良い空間作りに努めている。	浴室やトイレを中心とした回廊式で、大きな窓に面した居間には柔らかな明るい光が注いでいる。共用空間は、清掃が行き届いた清潔感のある室内になっている。居間には、習字や絵などの利用者の作品や職員と一緒に制作したクリスマスツリーなどが飾られており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではテーブル、椅子を配置、くつろげる空間にしている。また入居者様の希望や状態に合わせてテーブル等の模様替え、環境整備を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具類は入居前から使用しているなじんだ物の持ち込みをご家族に依頼し各々が自由に使用して頂いている。家具類の搬入をスタッフが代行する事もある。	居室の入り口に写真を掲示して、自室が分かるように工夫している。ぬり絵や習字などの作品も綺麗に飾られている。馴染みのタンスや椅子などを持ち込んだり、家族の写真などを飾り、落ち着いて居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計、手すりも各所に設置。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 3階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、レクリエーションに力を入れております。毎月必ず行われているレクリエーション(お食事会、季節を感じて頂ける四季折々のレクリエーション)の他に外部の方の協力により、音楽療法等。また、それとは別に週に6回のペースで、全入居者様を対象にリハビリテーションを交えたレクリエーション(口腔内体操、健康体操、近隣公園での運動)などを実施しております。残存機能の保持・向上を全館挙げての目標として掲げ、日々業務にあたっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①当ホームでは、理念の柱として「家族」という言葉を入れている。「家族」こそが生活の基本と考えて、地域生活での中核であり、最小単位として捉えているからである。 ②当ホームへの地域の理解と、友好的な関係、その間家を持続性、地域からの協力、支援を理念の2本の柱とした。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公園での外気浴や、買い物、レクリエーションを通し地域住民の方達と日常的にコミュニケーションをとっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のホームページにて情報を発信、相談等は窓口ホームページ上からも受け付けており、地域貢献に活かされている。		
4		3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、家族の方・地域包括支援専門員、地域の町内会の方達からいただいた意見や提案をサービスに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、情報の提供に努めている。又運営上の疑問や相談事が発生した場合は、行政担当者より、助言・情報提供して頂き、サービスの質の向上に活かされている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は交通量が多い道路に面しており、外部の方の不審者侵入予防の為施錠している。身体拘束委員会にて意見を出し合い、拘束ゼロに向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修の参加で学ぶ機会を持ち、職員同士の注意喚起を行い、虐待防止に努めている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で学習し、理解を深めるように努めている。成年後見制度は実際に施設で利用されている入居者様がいらっしゃる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定などの際には相談担当者がチェックシートに添って伝え、漏れが無いよう努めている。又不拘疑問には口頭、もしくは書面にて対応を行い、理解納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方が面会時や電話で話された内容を都度面会報告書へ記入し、管理者や職員全体が把握出来るように実施。改善が必要な事案は職員全体で話し合い、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡会議(月1回)、業務改善委員会(月2回)を設置し、職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職手当・皆勤手当、資格手当等の支給や時間が超過した場合の残業代支給の他に、環境整備委員会を中心とした働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量にあった外部研修の参加を促しあを行い、参加員は会社負担で参加をしている。又、外部研修終了後は内部研修会で学習した内容を参加者より発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加し他施設の職員と交流できる機会を設けており、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①必ず入居前に面談をする。②本人の出身地や、生活歴等③上記①②を元に本人との初期の関わりを重要視している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①必ず入居前に面談②最も困っている事を聞く③初期の住む環境作り・持ち込む物の相談も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人主体で考えつつも、家族の方とコミュニケーションを密に行っていく中で、一つ一つ相談し双方が安心して生活できるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援の考えやソレイユの理念に基づき、グループホームの特性を生かした関わり方を実践し、本人がまだ出来る事を見つけお願いしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話連絡の際に、本人の生活状況や特変があれば、報告相談を家族に行い、家族と一緒に検討していくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・親戚等の訪問・手紙のやり取りを手伝っている。家族との外出(教会への参加・外食等)も実施している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や認知症の進行度を考慮した座席の配置を行っている。又レクレーションを通し、入居者様同士でコミュニケーションが取れるよう図っている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退居後、他の病院に入院後も面会に行っている。②退居後、家族の経営しているお店を利用している。③家族が所属しているサークル主催のコンサートへの出席		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①一人一人の言動、行動、表情に注意を向けサインを見逃さないようにする。②本人の好むこと、喜ぶことを見つけるための時間を大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①入居契約前に独自の基本情報シートを用いて把握に努めている。②入居後も折に触れこれまでの暮らしを聞かせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①一日の過ごし方→ケース記録、タイムテーブル ②心身状態→温度版、処置版、IN・OUT表 ※上記に記載し一目で把握できるようにしている。③有する力等の現状→リハビリ表		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①入居前より医療関係者やケアマネからの情報収集 ②暫定ケアプランの作成 ③生い立ちから現在までの生き様をリサーチ ④本人、家族、医師、看護師と話し合いでケアプランの作成		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日々は個人記録 ②1回/1月フロア会議で各入居者毎に記録 ③1回/3ヶ月 モニタリング ④計画作成		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族関係、友人関係、本人を取り巻く人間模様や環境、背景、そしてそれらの変化に対しても対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①避難訓練→消防署に協力 ②生活保護受給者→民生委員の協力 ③趣味・レクリエーション→文化教育機関、ボランティアの協力を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームではインスリン、バルーンカテーテル、医療的ニーズの高い方が多く入居されている為、併設の診療所の医師による訪問診療と24時間体制の看護協力で日常の健康管理や処置がなされている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のミーティング時での申し送り及び看護師巡回時に入居者様の心身の状態を伝達し適切な処置や受診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には当ホームの看護師、入院先の病棟看護師のやり取りを行う。(入院中必要なたび) ②上記①の報告を管理者は都度受け、入院先の医療相談員と退院調整を行う。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①かかりつけ医師、看、介スタッフと本人、家族とで方針を話し合う。 ②上記①の方針で医、看、介護計画を立てる。 ③他の大きな病院と連携 ④繰り返しスタッフと家族で話し合う		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルがあり、研修会やミーティングなど日ごろから実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施。内部研修での災害時避難場所の確認を毎年行い周知徹底に努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳に配慮した声掛けの実施。スタッフ同士で指摘し合い接遇力を高めている。又入居時にはその方へのNGワードがあれば職員間での共有を行い対応している。職員は入社時に、秘密保持の誓約書を提出している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の本音の思いや希望が表せられるようにゆったりとした雰囲気の中でコミュニケーションを図る。又自己決定が難しい方にはその方の性格や好み等を考慮し職員が誘導していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本情報シートや日々のコミュニケーションの中から本人の希望を聞きながらその方のペースに合わせた一日の過ごし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力して頂きながら、本人が希望するオシャレができるよう努めている。又希望の入居者様には訪問理美容の利用をされている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家で料理をされていた方には料理の味付けのアドバイスや料理の盛り付けおしぼりの準備等を楽しく会話されながら行って頂く関わりを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による食事メニューの作成で栄養バランスを管理。一日の水分量も摂取しやすい方の為にゼリーや栄養補助飲料も常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態に合わせてケアを行い夜間帯では義歯を洗浄液につけている。訪問歯科の受診支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意が薄れてしまった方等に対してプライバシーに配慮した上、定時声掛け誘導実施しトイレ内での排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①飲食物の工夫や、牛乳・ヨーグルトの摂取、毎日の歩行訓練やレクの参加等で運動を促し便秘の予防に努めている。②IN・OUT表を記録し、看護師に報告③管理栄養士による、栄養指導		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否が見られる入居者様は清拭で対応し翌日等に入浴して頂けるよう促している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣や疲労状態等に応じて時間を決め臥床して頂いている。日中は体操、レクリエーション、歩行訓練で身体を動かす時間を作り夜間安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様全員の服薬管理を行っている。用法用量についてはリストにて確認理解できている。服薬の際にはダブルチェック・本人との確認確実に服薬されるまで見届けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が得意としている事を活かし役割を決め無理のない範囲でお手伝いして頂いている。自分が必要とされていると思えるような空間作りに努めている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩や外出レクに出掛けている。事前連絡で家族との外出も可能。その際当日に本人の体調を医師・看護師が確認し外出できるかどうか判断。帰設後のバイタルチェックも合わせて行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①金庫にて管理し、状況に応じてその都度必要な金額を出している。(家族との相談により) ②必ず記録に記載している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話を利用し手紙はスタッフがポストに投函を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用空間は、毎日掃除を行い清潔を保っている。②強い日差しがあるときには、カーテンなどで日陰を作る等の配慮を行っている。③花や観葉植物を飾る。④入居者様の作品を飾る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①食卓テーブルの配置は入居者様同士の相性などを配慮している。②片隅に一人になれたり、気の合う人とおしゃべりができる空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大事にしている物があれば、入居前に家族にお伝えし居室に設置し本人が落ち着いて過ごせるような環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①廊下幅は広く車椅子移動も安全 ②トイレ、浴室、廊下手すり配置 ③ナースコールの設置(各居室、トイレ、浴室など)など安全性重視で自立生活が送れるように工夫されている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ 4階		
所在地	札幌市中央区南7条西11丁目1番1号		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=0170100861-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、レクリエーションに力を入れております。毎月必ず行われているレクリエーション(お食事会、季節を感じて頂ける四季折々のレクリエーション)の他に外部の方の協力により、音楽療法等。また、それとは別に週に6回のペースで、全入居者様を対象にリハビリテーションを交えたレクリエーション(口腔内体操、健康体操、近隣公園での運動)などを実施しております。残存機能の保持・向上を全館挙げての目標として掲げ、日々業務にあたっております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①当ホームでは、理念の柱として「家族」という言葉を入れている。「家族」こそが生活の基本と考えて、地域生活での中核であり、最小単位として捉えているからである。②当ホームへの地域の理解と、友好的な関係、その間家を持続性、地域からの協力、支援を理念の2本の柱とした。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加して頂き公園などを使わせて頂き交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いた際に施設の活動内容や認知症についての質疑応答にて理解して頂いております。		
4		3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、地域包括支援センター、町内会の方へ情報交換ができるように配慮している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者にも運営推進会議に参加して頂き実情を把握して頂き、ご意見を頂く等の協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の状況を常に観察し見守りを強化している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活中、スタッフ間で言葉かけやケアの方法について等話し合い虐待防止に努めている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人研修の際には、積極的に参加するようにし職員と情報共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項を説明し了承を得た上で契約している。また制度改正がある場合等は再度説明し同意を得る。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様のご家族様へ、ソレイユ通信を月に1度郵送し、状況報告・ご意見や要望を伺うように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の研修会を開催し職員間で意見、提案を送りノートでも共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と責任者はコミュニケーションを図り何でも話せる関係であり責任者は管理者に皆の思いを伝えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の研修参加に配慮している。研修後は報告し回覧し、スタッフ間で共有できるように努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修に参加し交流し意見交換の場となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様に聞き取り調査を行い情報収集を行い本人様の要望に対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人様のご家族様に見学に来て頂き、事前に不安や要望を聞き、より良いサービスを提供できるようにしている。ご家族様とのコミュニケーションを大切にし意見交換や要望言いやすくする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本院様とご家族様の意向をしっかりと把握し安心してサービスを受けることができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という意識を持ち教えあったり励ましあったりしながら生活を共にし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添いご家族様の意向を聞きながら本人様と良き関係を築けるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の知人、友人の面会時にはゆっくりと過ごして頂く様に心掛けしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様のできること、できないことを把握しその方が力を発揮できるように声かけをしている。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・転所先にもお見舞いに行ったりご家族様に会った時には様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動・言動・表情を観察し、その中での思いや希望を把握するように努めている。ご家族様からも情報を聞くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や日々の暮らしの中での様子やサービス状況等の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している。その中で現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送り等で出た意見等は検討し現状にあったケアができるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡・報告事項は、「申し送りノート」を活用し、職員間で情報を共有し常に話し合い実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合わせ、その時の状況にあったケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアで音楽療法等幼稚園児や小学生との交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族様に依頼している受診の際は情報提供し連携を図っている。ご家族が道外の方は職員が代行する。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い状態変化等の場合は相談し受診の必要性の判断や助言を得ている連絡の取れる体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時情報提供を行い医療機関と情報を共有している。入院中、スタッフ・管理者が訪問し退院を含め今後の方向性について話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様にとって一番いい方法についてご家族とスタッフで話し合っている。また主治医と連携をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり急変時にも速やかに対応できるように備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い消火器、消火栓の使い方の訓練を行っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まず本人様の気持ちを尊重しさりげない声掛け言葉掛けを心掛けている。プライバシー確保に注意し個人情報の取り扱いに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での会話の中で思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるような場面と提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のプログラムを決めるのではなく個々のペースに合わせてその日の体調や気持ちに配慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用して頂き本人様にも希望を聞いている。ご家族様にも協力を頂き、季節にあった服装ができるように支援している。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れたり誕生日には手作りケーキや赤飯等を提供している。また準備・片づけができる方には手伝って頂いたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士にメニューのアドバイスを受け栄養のバランスに配慮している。水分摂取も時間を決めて提供し水分量のチェックを行い情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し毎食後の口腔ケアをしている。義歯の定期的な洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するように努めている。トイレ誘導・声掛け等を行い失禁の回数を減らすように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便コントロールし自然排便を促す取り組みを行っている。水分量もチェックし食事の工夫も取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	概ね時間は決まっているが本人様の体調や希望により変更したり入浴拒否の場合は無理強いせず時間をずらして声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況を把握し体調や希望に応じ対応しレクに参加をして頂いたりフロアでも生活リズムを作ることで安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は職員が把握しいつでも確認できるようにファイルに保管している。変更があった場合は情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意なことを把握しその方らしく過ごせるように努めている。外出や行事に参加することで気分転換となる様に支援している。		

グループホームソレイユ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候が良い日には公園を利用し散歩を行う。さらにデイルームも利用し、様々なレクに参加して頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望があれば持って頂くようにしている。その際には、トラブルがないよう金額を職員が把握しておくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を利用して頂いている。手紙の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには季節感のある飾りを貼っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは気の合った者同士が思い思いに過ごせるように席の配置を工夫している。テレビの前も集まりやすく空間となるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできる限り自宅に近い雰囲気となる様にご家族様に協力して頂いている。本人様の状況によりベッド、タンスの位置にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室がわかる様に大きな字で表示しているフロア、居室には不要なものを置かないようにし危険防止に努めている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム ソレイユ

作成日：平成 29年 1月 23日

市町村受理日：平成 29年 1月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	身体拘束の禁止対象といえる、具体的行為の理解が全職員十分とはいえない。	身体拘束の禁止の対象となる具体的行為内容を全職員に周知させる。	身体拘束の禁止の対象となる具体的行為内容をスタッフコーナーや職員用トイレ・更衣室等の職員のみが立ち入れる場所に掲示し、全職員に周知徹底する。また朝・晩のミーティング時、声だし復唱し理解を深める。	6ヶ月～ 1年間
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。